

# 逆境克服へ飲食店団結

市原、店主36人が新組織設立準備会

力を合わせて市原市内の飲食店を元気にしよう」と店主らが立ち上がった。活性化に向けた「(仮称) いちはらうまいもの会」の準備会がこのほど開かれ、業態を越えた三十六人が参加。ホームページやグルメマップでの情報発信や、共通メニューによるイベント展開など、経済不況などの「逆境」を克服するための具体的な事業のアイデアも話し合われた。

## 集客と魅力アップへ共同事業

同会の発起人で、市内一を経営する中村雅人さん(金也)によると、同市内の飲食業界は「個店がそれぞれに頑張っている」ものの、ファミリーレストランや回転寿司店などに押され、「昨秋からの経済不況とのダブルパンチを受けている」。

「売りがあっても個店でのアピールには限界もある。しかも、市内の飲食店主同士にヨコのつながりがほとんどなかった。『逆境こそ団結のチャンス』と中村さんが市内約八十店の店主に参加を呼び掛け、立ち上げにこぎ着けた。

五井公民館での準備会には、すし店、洋食店、ラーメン店、酒屋...などさまざまな業態の飲食店を経営する、三十代から六十代までの店主三十六人が参加。市原商工会議所、市職員らも出席した。

冒頭、中村さんが発会に至ったいきさつなどを説明。そのうえで集客と魅力アップのための事業として、共同ホームページやグルメマップによる情報発信、統一のぼりの作成、勉強会、地産地消への取り組み、井ものを統一展開する「おらが井」で一躍有名になった鴨川市のようなメニューイベントの展開などを提案した。

参加した店主は「こういう集まりをきっかけにしたい(すし店)」、「県外からも客を呼びたい」(ラーメン店)と意欲的。業種ごとのマップにしては「いい食材を作っている地元業者とタイアップしたい」など、具体的なアイデアも飛び出した。今後は毎月定期開催し、

会の名称や統一メニューなど詳細を詰めていく。や県、市の補助事業申請なども視野に入れており、「ければ年内には本格始動したい考えた。準備会を終中村さんは「頑張れば市の飲食店は活性化する。力を十二分に発信できる。間づくりを目指したい」と話していた。



「(仮称) いちはらうまいもの会」発足の経緯などを説明する発起人の中村さん—市原市の五井公民館

市原商工会議所、市職員らも出席した。